

◎ 同 盟 通 信 社 第 九 回 通 常 社 員 總 會 議 事 錄

昭和拾七年六月貳拾七日午後壹時拾分ヨリ東京市麴町區内幸町壹丁目壹番地帝國ホテルニ於イテ當社第九回通常社員總會ヲ開催ス

總 社 員 壹百拾八名

此ノ表決權 七千九百九拾八票

出席社員(委任狀共 九拾八名

此ノ表決權 七千八百七票

社長古野伊之助議長席ニ着キ開會ヲ宣シ昭和拾七年六月拾貳日附第九回通常社員總會招集通知書ニ記載セル事項ニツキ議事ニ入ルベキ旨ヲ告グ

社 團 法 人 同 盟 通 信 社

一 定 款 改 正 ノ 件

議長ヨリ定款改正ノ趣旨並ニ改正内容ニ付詳細説明シ改正定款案第三十一條第一項ニ關シ社員大石光之助氏(静岡新聞社)トノ間ニ質疑應答ノ後、別紙改正原案ヲ滿場異議ナク可決確定シタリ

次デ議長ハ便宜議案第三號報告事項ヨリ報告スベキ旨ヲ告ゲ
一 報 告 事 項

(イ) 昭和十六年度事業及決算報告ノ件

議長ヨリ別紙昭和十六年度事業及會計報告書ノ内事業報告ニ關シテハ朗讀ヲ省略シ、會計ニツキ報告スベシトテ之ガ内容ヲ詳細ニ説明シタリ

(ロ) 昭和十七年度豫算報告ノ件

議長ヨリ昭和十七年度ノ一般會計並ニ同特別會計ノ計數ヲ

詳述シ更ニ新規事業トシテハ

△國內關係

産業別通信發行計畫

國內通信情報網整備計畫

△海外關係

支局新設計畫

既設支局強化計畫

對外電報放送擴充計畫

海外無線電信施設擴充計畫

等ナル旨ヲ説明シ又最近迄ニ於ケル社員新聞社ノ異動、支局ノ設置、南方方面ヘノ從軍並ニ特派員ノ派遣等ニ關シ詳細報告シ更ニ任期滿了ニ依ル理事會長、副會長ハ第二十四回理事會ニ於イテ左ノ如ク互選サレタル旨報告シタリ

社團 法人 同盟通信社

理事會長 高石 眞五郎氏（大阪毎日新聞社）

同副會長 阿部 暢太郎氏（福岡日日新聞社）

同 上 山田 金次郎氏（東興日報社）

尙社員大石光之助氏（靜岡新聞社）ヨリ社費ノ徵收基準設定方ニ付要望アリ之ニ對シ古野議長ヨリ最モ公正妥當ナリト思料セラル基準ヲ設ケ徵收シツツアル旨述べ之ガ内容ヲ詳細報告一同諒承シタリ

一、定款第二十一條第一項第二號ニ依ル理事全員並ニ同第二十七條

ニ依ル監事福田恭助氏任期滿了ニ付改選ノ件

議長ハ定款第二十一條第一項第二號ニ依ル理事拾名（缺員二名）並ニ監事壹名任期滿了ニ付理事拾貳名、監事壹名ノ選舉ヲ行フベキ旨ヲ告ゲ、二期引續キ在任ノ左記理事ヲ特別委員ニ舉ゲテ詮衡シタキ旨ヲ諮リ滿場異議ナク之ニ贊成シタリ

依テ詮衡委員ニ舉ゲラレタル

野中楠吉	一力次郎	林政武
田中齊	高石眞五郎	山田金次郎
山本實一	小坂武雄	阿部暢太郎
清水順治	古野伊之助	畠山敏行

各理事ハ別室ニ於イテ評議ノ上左記理事拾貳名、監事壹名ヲ總會ニ報告シ滿場異議ナク可決、選定サレタル理事、監事ハ何レモ就任ヲ承認シタリ

△定款第二十一條第一項第二號ニ依ル理事拾貳名

林政武	(北國新聞社)
山田金次郎	(東奧日報社)
一力次郎	(河北新報社)
小坂武雄	(信濃毎日新聞社)

社団法人 同盟通信社

浦田芳朗	(京都新聞社)
古村精一郎	(秋田魁新報社)
中島幸基	(關門日報社)
伊豆富人	(熊本日日新聞社)
小柳調平	(新潟日日新聞社)
木下猛	(神戸新聞社)
兒玉實良	(鹿兒島日報社)
田中清文	(北日本新聞社)

△定款第二十七條ニ依ル監事壹名

福田恭助 (都新聞社)

以上

終ツテ議長ハ第九回通常社員總會ノ議事ハ全部終了セル旨ヲ告ゲ

午後貳時五拾分閉會ヲ宣ス

右會議ノ要領ヲ記シ左ニ署名捺印ス

昭和拾七年六月貳拾七日

議長

出席社員

同

高田 伊三郎

田中 祐吉

田中 齊

社団法人 同盟通信社

定款及細則改正要領

一、改正ノ趣旨

現行ノ定款及細則ハ昭和十一年同盟成立當時制定セラレ其間一小部分ノ改正ヲナシタルノミニテ時勢ノ變遷ニ依リ修正ノ要アル條項又ハ實情ニ適セサル條項生シタルヲ以テ之ヲ改正シ現實ニ適應スル規定トスル必要ヲ認メタルニ依ルモノナリ

一、定款中ノ主ナル改正事項左ノ如シ

- (イ) 社長及常務理事ハ理事會ノ承認アリタル場合ニ限リ政黨加入及事業干與ヲ爲シ得ルコトニ改メタルコト(改正定款案第三十一條)
 - (ロ) 支社設置、職制ノ制定變更及改正、總會附議事項ハ理事會ノ決議ヲ經ス社長ニ於テ決定シ得ルコトニ改メタルコト(改正定款案第四條、第二十五條)
 - (ハ) 出資理事社ノ社費月額ハ二千圓以上ナリシヲ四千圓以上ト改メタルコト(改正定款案第二十一條)
 - (ニ) 理事會長、副會長其他理事及監事ノ任期カ其ノ改選スヘキ會議前ニ滿了スルトキハ最近ノ會議迄其ノ任期ヲ伸長スルコトニ改メタルコト(改正定款案第二十三條、第二十四條)
 - (ホ) 理事會招集ハ年四回以上トアルヲ必要ノ都度開會スルコトニ改メタルコト(改正定款案第二十六條)
 - (ヘ) 常務理事四名以內ナルヲ六名以內ニ改メタルコト(改正定款案第二十九條)
 - (ト) 豫算提出期ヲ毎年三月末迄ト改メタルコト(改正定款案第三十四條)
 - (チ) 以上ノ外字句ノ修正、不要條項ノ削除ヲナシタルコト
- 一、細則中ノ主ナル改正事項左ノ如シ
- (イ) 入社金ノ分納制度ヲ廢止シタルコト(現行細則第八條、改正細則案第十一條)
 - (ロ) 緊急支出ヲ要スル場合常務監事ノ同意ヲ得テ社長ノ專決シ得ル限度三萬圓ヲ十萬圓ニ改メタルコト(改正細則案第三十條)
 - (ハ) 其他字句ノ修正、不適用條項ノ削除ヲナシタルコト

以上

社團
法人
同盟通信社定款及細則(案)

社團
法人
同盟通信社

社團
法人
同盟通信社定款(案)

第一章 總則

第一條 本社ハ正確公平ナル報道ノ普及ト國際的諒解ノ増進ニ資スル爲メ内外ノ「ニュース」ヲ蒐集編纂シ電信、電話、無線電信、無線電話其ノ他ノ通信方法ニ依リ迅速正確ニ之ヲ社員並ニ海外ノ通信社及新聞社ニ通報スル事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス

第二條 本社ハ左ノ附帶事業ヲ行ヒ又ハ之ニ出資ヲ爲スコトヲ得

一、新聞社ニ非サル社員外ノ者ニ本社ノ蒐集スル「ニュース」ヲ供給スルコト

二、廣告ノ取次

三、「ニュース」寫眞及其ノ製版ノ供給

四、本社ノ事業ニ關聯スル圖書雜誌ノ出版

五、其ノ他理事會ニ於テ本社ノ目的ヲ達成スル爲メ必要ト認メタル事業

第三條 本社ハ社團法人同盟通信社ト稱ス

第四條 本社ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

第二章 社員

第五條 本社ノ社員ハ我國ニ於テ日刊新聞ヲ發行スル新聞社(法人ノ支店又ハ發行所ニシテ日刊新聞ヲ發行スル者ヲ含ム)ノ一人ノ代表者、法人タル日刊新聞社、社團法人日本放送協會及無線電信又ハ無線電話ニ依ル放送事業ヲ經營スル者ニ限ル我國ニ於テ日刊新聞ヲ發行スル新聞社ノ代表者、法人タル日刊新聞社及無線電信又ハ無線電話ニ依ル放送事業ヲ經營スル者ハ本定款及細則ノ定ムル條件ニ據リ何時ニテモ社員タルコトヲ得ルモノトス

法人タル社員ニシテ代表者數名アル場合ハ社員タル權利義務ヲ行フヘキ者ヲ定メ本社ニ届出テ置クヘキモノトス代表者以外ノ者ヲシテ代理セシムル場合亦同シ

第六條 社員タルラントスル者ハ社員二名以上ノ紹介ヲ以テ本社所定ノ入社申込書ニ入社金ヲ添ヘ社費月額承諾書ト共ニ本社ニ提出スルモノトス

各入社申込者ノ負擔スヘキ口數及社費月額ハ當該申込者ノ負擔力及他ノ社員ノ負擔セル口數及社費月額トノ均衡ヲ考慮シ理事會之ヲ決ス

社員タル資格ハ本社ヨリ入社承諾ノ通知アリタル時ヨリ始マル

第七條 入社金及社費ハ如何ナル理由アルモ還付セサルモノトス
社員タル法人カ合併ニ依リ解散シタル場合ニ於テ新ニ設立セラレタル法人又ハ社員タル法人ヲ合併シタル法人カ本社ニ入社シタルキハ解散シタル社員タリシ法人ノ入社金ヲ以テ其ノ入社金ト爲シ新ニ入社金ヲ要セサルモノトス法人ニ非サル日刊新聞社ノ代表者更迭ノ場合亦同シ

第八條 社員ハ細則ノ定ムル範圍及方法ニ依リ本社頒布ノ「ニュース」ヲ受クル權利ヲ有ス但シ社員カ社費ヲ滯納スルトキハ本社ハ「ニュース」ノ交付ヲ停止スルコトヲ得「ニュース」交付ノ停止ヲ以テ社費ノ納付ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス
社員カ社費ヲ滯納シタル場合ニ於テ本社カ當該社員ニ對シ金錢債務ヲ負フトキハ本社ハ社費ト債務ヲ相殺スルコトヲ得

第九條 社員退社セントスルトキハ其ノ旨ヲ書面ヲ以テ本社ニ申出テ理事會ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

退社ノ申出ハ三月以前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ已ムヲ得サル理由ヲ明示シテ理事會ノ承認ヲ得タル場合ハ此限ニ在ラス

第十條 社員ハ其ノ理由ノ如何ニ拘ハラズ本社ノ爲メ不利ナル時ニ於テ退社シタルトキハ本社ニ對シ退社ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキモノトス

第十一條 社員カ其ノ新聞紙ノ發行ヲ廢止シタルトキハ本社ヲ退社シタルモノト看做ス

第十二條 社員カ二月分以上ノ社費ヲ滯納シタルトキ又ハ本定款ニ違反シ本社ノ體面ヲ毀損シ若クハ本社ノ目的ニ違反スル行爲アリタルトキハ理事會ノ決議ヲ經テ該社員ヲ除名スルコトヲ得

第十三條 社員ハ退社又ハ除名ノ場合ト雖本社ニ對シ財産上ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第三章 社員總會

第十四條 通常總會ハ每會計年度終了後三月以内ニ、臨時總會ハ必要ノ都度之ヲ開ク總會ノ日時及場所ハ社長之ヲ定ム

第十五條 總會ニ於テ社員ノ三分ノ一以上ニ當ル社員ヨリ會議ノ目的事項ヲ明示シテ請求シタルトキハ社長ハ十日以内ニ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第十六條 總會ニ於テ社員ノ表決權ノ過半數ニ當ル社員ノ同意ヲ得タルトキハ豫メ通知セサル事項ニ付決議ヲ爲スコトヲ得

第十七條 總會ニ於ケル各社員ノ表決權ハ其ノ入社金及社費ノ現實拂込月額金壹百圓毎ニ一票トシ金壹百圓未滿ノ金額ハ表決權ナキモノトス社費ノ現實拂込月額ノ計算方法ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

社員ニシテ毎月納付スヘキ社費ヲ二月分以上滯納ノ事實存スル間ハ表決權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス

第十八條 社員ハ他ノ社員ニ書面ヲ以テ委任シ其ノ表決權ヲ行使スルコトヲ得前項ノ委任狀ハ豫メ本社ニ届出タル印鑑ト符合スル印章ヲ使用シテ作成スルニ非サレハ社長ハ表決權ノ行使ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 總會ノ決議ハ出席者表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ委任狀ヲ以テ表決權ヲ行使スル者ハ出席者ト看做ス

本定款ノ變更ハ總社員ノ表決權ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十條 左ニ掲クル事項ハ之ヲ總會ニ報告スルモノトス

一、豫算及決算

二、細則ノ制定、變更及廢止

三、社員ノ入社及退社

四、前各號ノ外社長ニ於テ必要ト認ムル事項

第四章 理事會

第二十一條

左ノ資格ヲ有スル者ヲ理事トシ其ノ總員ヲ以テ理事會ヲ組織ス
一、社團法人日本放送協會以外ノ社員ニシテ入社金壹萬圓以上ヲ拂込ミ且月額金四
千圓以上ノ社費ヲ納付スル者

二、社團法人日本放送協會以外ノ社員ニシテ前號ニ該當セサル者ヨリ總會ニ於テ無
記名連記投票ニ依リ選舉セラレタル十二名以内ノ社員但シ得票同數ナル場合ハ表
決權ノ多キ者ヲ當選者トシ表決權同數ノ場合ハ抽籤ニ依ル

三、社團法人日本放送協會ヨリ推舉シタル同協會役員五名以内

四、前各號ニ依ル理事ノ過半數ノ同意ニ依リ推舉シタル學識經驗アル者七名以内

前項第一號又ハ第二號ニ該當スル社員カ法人ナルトキハ其ノ代表者又ハ第五條第三
項ノ規定ニ依リ代表者又ハ代理者ヲ以テ理事トス

第二十二條 理事ハ名譽職トス但シ前條第一項第四號ニ依ル者ハ此限ニ在ラス

第二十三條 第二十一條第一項第二號及第四號ニ依ル理事ノ任期ハ三年トス但シ再選
ヲ妨ケス

第二十一條第一項第二號及第四號ニ依ル理事ニ缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺ス但
シ事業上支障ナキトキハ理事會ノ決議ヲ以テ之ヲ延期スルコトヲ得

補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘餘期間トス

第二十一條第一項第二號及第四號ニ依ル理事ノ任期カ之ヲ選舉スヘキ總會又ハ推舉
スヘキ理事會前ニ滿了スルトキハ其ノ總會又ハ理事會ノ終結迄之ヲ伸長ス

理事第二十一條第一項第一號及第三號ニ定ムル資格ヲ缺クトキハ當然理事ヲ失格ス

此場合同條第二項ノ規定ニ依リ理事タル者亦同シ

第二十四條 理事會ニ會長一名及副會長二名ヲ置ク

會長ハ理事會ヲ召集シ其ノ議長ト爲リ理事會ト社長トノ連絡ニ當ル會長事故アルト
キハ副會長其ノ指示ニ從ヒ任務ヲ代理ス

會長及副會長ハ第二十一條第一項第一號乃至第三號ニ依ル理事ノ互選ヲ以テ之ヲ定
メ其ノ任期ハ三年トス但シ再選ヲ妨ケス

會長、副會長ニ缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺ス補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘餘期間
トス

會長、副會長ノ任期カ之ヲ互選スヘキ理事會前ニ滿了スルトキハ其ノ理事會ノ終結
迄之ヲ伸長ス

第二十五條 理事會ハ定款及細則ニ於テ別ニ定ムルモノノ外左ノ事項ヲ議定ス

一、細則ノ制定、變更及廢止

二、豫算及決算

三、社員ノ入社及退社

四、社債ノ募集

五、第二十一條第一項第二號及第四號ノ理事ノ數

六、社長、常務理事及其ノ以外ノ第二十一條第一項第四號ニ依ル理事並ニ常務監事
ノ報酬及手當

七、前各號ノ外會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十六條 理事會ハ必要ノ都度之ヲ召集ス召集ノ場所及日時ハ會長之ヲ定ム

社長又ハ理事總員ノ五分ノ一以上ニ當ル理事ヨリ會議ノ目ノ事項ヲ明示シテ請求シ
タルトキハ會長ハ五日以内ニ理事會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二十七條 理事會ニ於ケル理事ノ表決權ハ各一票トシ其ノ決議ハ總員ノ過半數出席
シ其ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ社長及常務理事ノ解任及細則ノ制定

變更並ニ廢止ハ理事總員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ要ス

理事ハ他ノ理事ニ書面ヲ以テ委任シ其ノ表決權ヲ行使スルコトヲ得

第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章 監事

第二十八條 本社ニ監事二名ヲ置キ内一名ハ常務ニ當ルモノトス

監事ハ總會ニ於テ選舉シタル者及社團法人日本放送協會ヨリ推薦シタル同協會役員
各一名トス

第二十一條第一項第二號但書ノ規定ハ前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス

監事ノ任期ハ三年トス但シ再選ヲ妨ケス

第二十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ監事ニ之ヲ準用ス

常務ニ當ラサル監事ハ名譽職トス

第六章 社長及常務理事

第二十九條 第二十一條第一項第一號乃至第三號ニ依ル理事ノ過半數ノ同意ヲ以テ同
項第四號ニ依ル理事ノ中ヨリ社長一名及常務理事六名以内ヲ定ム

第三十條 社長ハ本社ノ事業ヲ總理シ本社ヲ代表ス尙總會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル
常務理事ハ社長ノ定ムル所ニ依リ業務ヲ分擔シ社長事故アルトキハ其ノ指示ニ從ヒ
任務ヲ代理ス

第三十一條 社長及常務理事ハ左ノ行爲ヲナスコトヲ得ス但シ理事會ノ同意ヲ得タル
トキハ此限ニ在ラス

一、我國ニ於テ發行サル日刊新聞社ノ事業及無線電信又ハ無線電話ニ依ル放送事
業ニ干與シ又ハ其ノ株主若クハ出資者タルコト

二、政治及社會運動ノ實際ニ携ハリ又ハ政黨若クハ社會的結社ニ入黨加入スルコト

三、他ノ業務ニ從事シ又ハ他ヨリ報酬ヲ受クルコト

社長又ハ常務理事カ前各號ノ一ニ違反シタルトキハ理事會ハ其ノ任務ヲ解クコトヲ
得

第七章 資産及會計

第三十二條 本社ノ資産ハ寄附財産、社員ノ入社金及社費、事業收入、雜收入其ノ他
ノ財産ヨリ成ルモノトス

第三十三條 本社ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月末日ニ終ルモノトス

第三十四條 社長ハ毎年三月末迄ニ翌年度豫算ヲ、每會計年度終了後三月内ニ決算ヲ
作成シ之ヲ理事會ニ提出スルコトヲ要ス

豫算外ノ支出ハ理事會ノ承認又ハ追認ヲ要スルモノトス

第三十五條 決算ノ結果剩餘金ヲ生シタルトキハ翌年度ノ收入ニ繰越シ不足ヲ生シタ
ルトキハ理事會ニ於テ其ノ補填方法ヲ決定ス

第三十六條 社債ノ募集ハ總會ノ決議ヲ要ス

第三十七條 本社解散シ殘餘財産アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ其ノ歸屬者ヲ定ム

第八章 解散

第三十八條 本社ハ總社員ノ表決權ノ四分ノ三以上ノ同意アルニ非サレハ解散ノ決議
ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 本社解散シタルトキハ社長又ハ社長ノ指定シタル者清算人ト爲ル

以上

法團 同盟通信社細則(案)

第一章 入 社

第一條 定款第六條第一項ニ依リ提出スヘキ入社申込書及社費月額承諾書ハ附録書式第一號及第二號ニ依ル

第五條 ニ依ル申込變更同意書及社費月額變更同意書ノ書式ハ前項ノ書式ニ準スルモノトス

第二條 前條ノ入社申込書及社費月額承諾書ニ署名スヘキ者ハ申込者カ法人ナルトキハ其ノ代表者、法人ナラサルトキハ申込ヲ爲ス新聞社又ハ無線電信若クハ無線電話ニ依ル放送事業ヲ經營スルモノノ代表權ヲ有スル者トス

第三條 定款第六條第四項ノ通知ハ附録書式第三號ニ依ル

第四條 入社申込者ノ希望アルトキハ定款第六條第三項及同條第四項ノ規定ニ拘ハラヌ社長ニ於テ假ニ當該申込者ノ負擔スヘキ入社金ノ口數及社費月額ヲ定メ入社ノ假承諾ヲ爲シ直ニ「ニュース」ノ供給ヲ開始スルコトヲ得

前項ノ假承諾通知ノ書式ハ前條ノ書式ニ準ス

入社ノ假承諾ハ次回ノ理事會ニ附議シ之カ追認ヲ經ルコトヲ要ス

第五條 定款第六條第一項ニ依ル入社金口數若クハ社費月額又ハ前條ノ假承諾ヲ爲スニ當リ假ニ定メタル入社金ノ口數若クハ社費月額カ理事會ノ決議ニ依リ變更セラレタル場合ニ於テハ社長ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ入社申込者ニ通告シ其ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス

第六條 入社ノ假承諾カ理事會ノ追認ヲ得サルトキ又ハ入社申込者カ前條ニ依ル入社金及社費月額ノ變更ニ同意ヲ與ヘサルトキハ入社ノ申込ハ其ノ效力ヲ失フ此場合ニ於テ入社申込者ハ既ニ納付シタル社費月額ノ返還ヲ請求シ又ハ申込ノ效力ヲ失ヒタルニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

第二章 代表者及代理人

第七條 法人タル社員ニシテ代表者數名アルモノカ定款第五條第三項ニ依リ社員タル權利義務ヲ行フヘキ者ヲ特ニ届出テサル場合ハ第二條ノ入社申込書ニ署名シタル者ヲ以テ當該社員ノ權利義務ヲ行フ者ト看做ス

定款第五條第三項ニ依リ代理人トシテ法人タル社員ノ權利義務ヲ行ヒ得ル者ハ編輯主務者、營業主務者又ハ之ニ準スル高級職員ニシテ理事會カ當該社員ヲ代表スル資格アリト認メタル者ニ限ル

第三章 社 費

第八條 各社員ノ負擔スヘキ社費月額ハ定款第六條第三項ニ掲クル事項ニ基クノ外本社ヨリ供給スル「ニュース」ノ分量、其ノ供給ノ爲メ特ニ要スル費用其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ全社員ニ於テ公平ニ分擔スルノ主旨ニ則リ之ヲ決定スヘキモノトス

第九條 戰爭、重大事變、重要ナル國際會議、國際競技等ノ臨時事件ニ關スル特別「ニュース」ニシテ既定豫算外ニ特別ノ經費ヲ要スルモノハ其ノ特別經費ヲ分擔スル社員ニ限リ之カ供給ヲ受ケ得ルモノトス

第十條 社員ハ毎月二十日迄ニ當月分ノ社費月額ヲ本社ニ納付スヘキモノトス

第十一條 本社ハ社員ニ對シ毎月納付スヘキ社費月額ノ全部若クハ一部ノ債務ニ付本社ノ指定スル廣告取扱業者又ハ其ノ他ノ者ノ連帶保證ヲ求ムルコトヲ得

第四章 「ニュース」ノ供給條件

第十二條 本社ノ「ニュース」ハ本社ノ東京本社又ハ國內ニ於ケル支社若クハ支局ノ所在地ニ於テ各社員ニ配付スルモノトス

本社ノ東京本社又ハ國內ノ支社若クハ支局ヨリ社員ノ所在地迄ノ「ニュース」ノ送信費用ハ當該社員ノ負擔トス

第十三條 社員ハ本社ヨリ供給ヲ受ケタル「ニュース」ヲ自己ノ發行スル新聞紙ニ掲載シ又ハ自己ノ經營スル無線電信若クハ無線電話ニ依リ放送スルコトヲ得ルノ外之ヲ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得サルモノトス

同一ノ社員カ二種以上ノ日刊新聞ヲ發行スル場合ニ於テモ本社ノ供給スル「ニュース」ハ之ヲ社員ニ非サル他ノ新聞發行所ヲシテ共用セシムルコトヲ得サルモノトス

第十四條 社員カ本社ヨリ供給ヲ受ケタル外國「ニュース」ヲ新聞紙ニ掲載シ又ハ無線電信若クハ無線電話ニ依リ放送スル場合ハ各「ニュース」毎ニ「同盟」ナル「クレディット」ヲ附スヘキモノトス

第五章 社員ノ協力

第十五條 本社通信網ノ十分ナラサル地方ニ於ケル社員ハ本社ノ依頼ニ依リ其ノ所在地方ノ「ニュース」ヲ本社ノ費用ニテ本社ニ供給スヘキ義務アルモノトス

本社ハ前項ノ「ニュース」ヲ内外ニ公表通報スルコトヲ得但シ當該社員カ特ニ指定シタル地域内ニ於テハ之ヲ公表スルコトヲ得ス

第十六條 社員ハ其ノ所在地方ニ於テ「ニュース」ノ蒐集通報ニ從事スル本社ノ從業員ニ對シ能フ限リノ援助便宜ヲ與フヘキモノトス

第六章 社員總會

第十七條 社員總會ノ招集ハ之ニ附議スヘキ事項ヲ示シ少クトモ期日十日以前ニ各社員ニ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第十八條 定款第十七條第一項ニ依ル社費ノ現實拂込月額ハ各總會ノ開カル月ノ前月以前六月份ノ社費月額トシテ現實ニ納付シタル社費總額ノ六分ノ一ニ當ル金額トス

社長ハ社員總會毎ニ其ノ總會ニ於テ各社員ノ有スル表決權ノ票數ヲ算定シ之ヲ記載シタル書類ヲ會場ニ備ヘ置クヘキモノトス

第七章 理事會、理事及監事

第十九條 理事會ノ招集ハ之ニ附議スヘキ事項ヲ明示シテ各理事及監事ニ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ出席者五名以上ノ同意アルトキハ豫メ通知セサル事項ヲ附議スルコトヲ妨ケス

第二十條 理事會ハ決議ヲ以テ定款第二十五條各號ニ掲ケタル事項ノ外之ニ準スヘキ重要事項ノ決定ヲ其ノ權限ニ留保スルコトヲ得

第二十一條 理事會ノ出席者カ定足數ヲ缺キタル場合ニ於テ會長ハ緊急ノ事項ニ限リ出席理事ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ假決議ヲ爲シ社長之ヲ執行スルコトヲ得此假決議ハ次回ノ理事會ニ附議シ之カ追認ヲ求ムルコトヲ要ス

理事會ノ追認ヲ得ルコト能ハサル假決議ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ但シ社長ハ其ノ假決議ニ基キ既ニ執行シタル業務ノ殘務ニ限リ之ヲ遂行シ得ルモノトス

第二十二條 簡易ナル事項ニシテ之カ爲メ特ニ會議ヲ開クノ必要ナシト認メラルモノニ付テハ會長ハ通信ニ依リ各理事ノ賛否ヲ徵シ之ヲ以テ理事會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第二十三條 定款第二十一條第一項第四號ニ依ル理事ハ社長、常務理事ノ解任及定款第二十五條第六號ニ掲ケタル事項ヲ議定スヘキ理事會ニ出席スルコトヲ得但シ會長ヨリ特ニ出席ヲ要求セラレタル場合ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ特ニ出席ヲ要求セラレタル定款第二十一條第一項第四號ニ依ル理事ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付當該理事會ノ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十四條 會長ハ理事會ノ議事録ヲ作成シ定款第二十一條第一項第四號ニ依ル理事以外ノ出席理事中少クトモ二名以上ノ署名ヲ徴シ之ヲ本社ニ備ヘ置クヘキモノトス
會長ハ前項ノ理事會ノ議事録ノ寫又ハ其ノ概要書ヲ各理事及監事ニ送付スヘキモノトス

第二十五條 監事ハ理事會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得但シ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十六條 常務ニ當ル監事ハ自己ノ解任及自己ノ報酬手當ヲ議定スヘキ理事會ニ出席スルコトヲ得サルモノトス

第二十七條 名譽職タル理事及監事カ理事會又ハ社員總會ニ出席スル爲メ其ノ開催地ニ旅行スル場合ニハ本社ハ其ノ旅費ヲ支辨スヘキモノトス

第八章 社長ノ權限及職務

第二十八條 社長ハ從業員ヲ任免シ其ノ俸給及手當ヲ定ム

第二十九條 第九條ニ掲ケタル既定豫算外ノ特別ノ經費ヲ要スル臨時事件ニ付テハ社長ハ追加豫算ヲ作成シ各社員ノ經費分擔方法ヲ定メ之ヲ理事會ニ提出スルコトヲ要ス

第三十條 緊急ヲ要スル支出ニ付前條ニ依リ追加豫算ヲ理事會ニ附議スルノ暇ナキトキハ金十萬圓ヲ超エサル支出ニシテ增收又ハ他ノ費目ノ流用其ノ他ニ依リ當該會計年度内ニ之ヲ補填シ得ヘキ見込アルモノニ限り社長ハ常務ニ當ル監事ノ同意ヲ得テ之ヲ專決スルコトヲ得但シ社長ハ之ヲ次回ノ理事會ニ報告スルコトヲ要ス

前項專決支出額ノ補填ニ付社長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ理事會ノ同意ヲ得テ其ノ支出額ノ全部又ハ一部ヲ社員ヨリ追徴スルコトヲ妨ケサルモノトス

第三十一條 社員以外ノ者ニ對スル「ニユース」ノ供給條件ハ社長之ヲ定ム附帶事業ノ料金、販賣價格、手数料等ニ付亦同シ但シ理事會又ハ社員總會ノ決議ノ主旨ニ反スルコトヲ得ス

第三十二條 外國通信社トノ重要ナル契約締結其ノ他本社ノ經營方針ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ業務事項ニ付テハ社長ハ事情ノ許ス限り豫メ理事會ニ協議スヘキモノトス

第九章 會計

第三十三條 本社會計ノ勘定科目ハ社長ニ於テ常務監事ト協議ノ上之ヲ定ム

附 錄

以上

「書式第一號」

入 社 申 込 書

(新聞社名)

(代表者名)

右者今般貴社定款及細則了承ノ上加盟社員トシテ入社致度貴社定款第六條第一項ニ依リ入社金及社費月額承諾書ヲ添ヘ此段申込候也

一、入社金

圓也

但シ

昭和 年 月 日

(新聞社所在地)

(新聞社名)

(代表者名)

(紹介者名)

團 團

社團法人同盟通信社御中

「書式第二號」

社費月額承諾書

今般貴社ニ入社申込候ニ付テハ左記ノ通り社費月額ヲ負擔致スヘク又貴社ノ通信受信方法ハ次ノ如ク希望致候

一、社費月額金

圓也

右拂込方法

一、通信受信方法

以上

昭和 年 月 日

(新聞社所在地)

(新聞社名)

(代表者名)

團

社團法人同盟通信社御中

「書式第三號」

入 社 承 諾 書

昭和 年 月 日附ヲ以テ御申込相成候本社ニ御入社ノ件承諾致候
右理事會ノ決議ニ依リ御通知申上候也

追テ貴社ノ入社金、社費月額及通信供給方法ハ左ノ如ク決定致候間御承知相成度候

一、入 社 金

圓也

一、社費月額金

圓也

一、通信供給方法

以上

昭和 年 月 日

(社長名)

殿

昭和十七年度收支豫算

一般會計

收入之部		支出之部	
新聞通信收入	4,665,240.00	總體費	1,895,580.00
經濟通信收入	1,639,920.00	本社費	1,697,880.00
海外通信收入	5,356,500.00	國內支社局費	1,855,752.00
通信外諸收入	248,640.00	海外總支社局費	3,766,560.00
受入手數料	42,000.00	國內電信電話費	812,720.00
		海外電信電話費	1,808,768.00
特別會計 出版部剩餘金繰入	40,320.00	特別會計 寫真部缺損金補填	179,100.00
小計	11,992,620.00		
當期缺損金	23,740.00		
計	12,016,360.00	計	12,016,360.00

特別會計

	收入	支出	過不足
出版部	715,200.00	674,880.00	收入超過 40,320.00
寫真部	524,400.00	703,500.00	支出超過 179,100.00
計	1,239,600.00	1,378,380.00	支出超過 138,780.00

昭和十六年度事業及會計報告書

法人團體

同盟通信社

一、昭和十六年度

(自昭和十六年四月一日至同十七年三月卅一日)事業報告

本期ニ於テハ歐米諸列強ノ國運ヲ賭シタル興亡戰ハ愈々激化シ國際政局ノ展開亦複雜多岐ヲ極メ、我國ハ支那事變勃發後既ニ五年ニ及ビ更ニ進シテ大東亞ノ新秩序ヲ建設シ以テ世界ノ新秩序建設ニ邁進スル決意ヲ以テ米英擊滅ノ大業ニ厥起シ、今ヤ世界ヲ舉ケテ戰火ノ巷ト化スルニ至レリ。之カタメ國際報道戰線ハ日ヲ逐テ白熱化シ、殊ニ東亞ニ於ケル戰局ノ進展及我國ノ一舉一動ハ世界報道陣ノ異常ナル注視ヲ受クルニ至リ、コレニ伴ツテ當社ノ活動亦自ラ國際的重要性ヲ著シク加重スルニ至レリ。又南方作戦ノ進展及共榮圈建設ノ實情ト世界狀勢ノ推移ハ國民ノ均シク知ラント欲スル所ニシテ千歲一遇ノ重大時機ニ際スル報道陣ノ責務ハ頗ル大ナルモノアリ。

依ツテ當社ハ舉社一致、全機能ヲ發揮シテ其重要使命ノ遂行ニ萬遺憾ナキヲ期シツゝアリ。即チ大東亞戰爭勃發ト共ニ多數ノ特派員ヲ南方方面ノ現地ニ派遣シ報道報國ニ全力ヲ盡スト共ニ、諸外國トノ通信連絡上ノ大變革ニ對處シテ機宜ニ應スル有効適切ナル措置ヲ講シ世界各方面ノ實情ヲ把握シテ迅速ニ之ヲ報道シ、一面對外放送機構ノ強化ヲ行ヒ中外ニ對スル國策ノ闡明ト戰況ノ速報ニ努メ且敵性國家ノ謀略宣傳ノ擊碎ニ日夜奮闘ヲ續ケ居レリ。又國內ニ在リテハ前期ヨリ引續キ實施中ノ國內同報無線電信設備ノ擴張ニ努メ既ニ全國四十二箇所ニ設置ヲ完了シ且支局ヲ増置シタル外、全國ニ數百

名ノ通信員ヲ配置シテ取材網ノ整備ヲ爲ス等報道施設ノ充實ヲ圖リ以テ「ニュース」ノ蒐集及供給ニ刷新ヲ加ヘ一面國民ノ指導啓發ニ多大ノ貢獻ヲ爲シツ、アリ。

本期間中ノ重要事項左ノ如シ

一、役員ノ異動

昭和十六年九月十日 理事進藤信義氏（神戸新聞社）辭任。

全 十二月廿六日 理事古野伊之助、同畠山敏行兩氏、定款第二十一條第一項第四號ニ依ル理事任期滿了ニ付十二月三日開催ノ理事會ニ於テ再選、全定款第二十八條ニ依リ古野伊之助氏ハ社長ニ、畠山敏行氏ハ常務理事ニ何レモ重任決定。

全 十七年二月三日 理事柴田勝衛氏（讀賣新聞社）辭任、後任理事トシテ宮崎光男氏（同社編輯局長）就任。

全 二月十日 理事會長田中都吉氏（中外商業新報社）ノ日本新聞會長就任ニ伴ヒ理事並ニ理事會長辭任、後任理事トシテ小汀利得氏（同社編輯局長）就任。

全 二月廿四日 常務監事古賀傳吉氏任期滿了ノ處日本放送協會ヨリ同氏ノ再推薦アリ、監事福田恭助氏ノ同意ヲ得テ常務監事ニ重任。

全 三月四日 理事藤安新之助氏（舊鹿兒島朝日新聞社）辭任。

一、社員總會

本期間中開會スルコト左ノ如シ。

昭和十六年六月二十三日 第八回通常社員總會

一、理事會

本期間中開會スルコト左ノ如シ。

昭和十六年六月二十三日 第二十一回理事會

全 十二月三日 第二十二回理事會

全 十七年二月六日 第二十三回理事會

一、本期末ニ於ケル社員數

前期末即チ昭和十六年三月三十一日現在ニ於ケル社員數ハ百五十一社ナリシ處、其後新ニ三十一社ノ加盟ヲ見タルヲ本期ニ於テハ各地方ニ於ケル新聞統制進捗ニ伴ヒ合併又ハ廢刊ニ依ル退社五十九社ニ達シタルタメ本期末ニ於ケル社員數ハ總計百二十三社トナル。

一、本期末ニ於ケル社員以外ノ通信購讀者數

内地 支那其他 計

新聞通信

一六二

一、〇九三

一、二五五

一、本社移轉

本社々業ノ發展ニ伴ヒ社屋ハ益々狹隘トナリ各局各所ニ分散シ不便尠カラザリシヲ以テ昭和十七年一月十二日麴町區日比谷公園市政會館内ニ移轉シタリ。之ト同時ニ調査局出版部ハ從來ノ市政會館ヨリ京橋區銀座西七丁目同盟分館内ニ移轉セシガ、更ニ當社所有内幸町舊聯合社跡ノ土地ニバラツク建造ノ計畫ニ着手シ、竣工ノ上ハ役員室、總務局各部其他ヲ收容ノ豫定ナリ。

一、職制一部變更

(イ) 昭和十六年八月一日 通信局ニ英文部ヲ新設ス
(ロ) 全 十二月五日 重大時局ニ即應シ限ラレタル人員ヲ集約的、綜合的ニ配備シ我社ノ使

命達成ニ遺憾ナキヲ期スルタメ左記ノ如ク全般的ノ職制變更ヲ爲シタリ。

總務

編輯

局

庶務部ヲ廢止シ文書部ニ合体ス。

編輯

局

査閱部ヲ廢止シ整理部ニ合体シ、政經、社會、體育ノ三部ヲ統合シテ

内信部ヲ設ク。

特信部ヲ調査局ヨリ編輯局ニ移管ス。

通信

經濟

局

英文部ヲ海外部ニ併合シ、技術部ヲ電務部ト改稱ス。

一、海外支局ノ新設

國際情勢ノ變轉ニ伴ヒ海外通信網ノ強化ヲ計ルタメ左記支局ヲ新設セリ。

西貢支局 (昭和十六年五月開設)

マドリッド支局 (昭和十六年十一月開設)

一、國內支局ノ新設

國內同報無線電信ノ開始ニ伴ヒ新ニ左記支局ヲ設置セリ。

豐原支局 (昭和十六年四月開設)

平壤支局 (同 五月同上)

德島支局 (同 七月同上)

那覇支局 (同 十月同上)

盛岡支局 (昭和十七年一月同上)

花蓮港支局 (同 一月同上)

高雄支局 (同 一月同上)

室蘭支局 (昭和十七年三月同上)

静岡支局 (同 三月同上)

川崎支局 (經濟通信ノタメ開設、無電設置ナシ、昭和十六年四月開設)

一、國內支局ノ閉鎖

左記支局ハ經濟通信購讀者激減ノタメ閉鎖セリ。

豊橋支局 (昭和十七年三月閉鎖)

一、通信部新設

國內通信網擴充強化ノタメ支社局ノ存置ナキ左記都市ニ通信部ヲ設置スル外、全國ニ亘リ通信員約四百名ヲ囑託シ細胞組織ニヨル通信網ヲ確立ス。

横須賀通信部

山口通信部

佐賀通信部

一、専用電話増設

國內通信網ノ充實ヲ圖ルタメ左記専用電話施設ヲ擴充セリ。

イ、東京本社、札幌支局間ノ市外専用電話線ヲ小樽支局迄延長シ又中途仙臺支局ニ接續シ何レ

モ昭和十六年四月一日ヨリ開通セリ。

ロ、東京本社、長野支局間ニ市外専用電話線ヲ新設、昭和十六年十月一日ヨリ開通セリ。

ハ、市外専用電話幹線ニヨル通信輻輳緩和ノタメ大阪、京都、神戸三支局間ヲ連接スル市外専用電話線ヲ新設、昭和十七年一月一日ヨリ開通セリ。

一、對外放送無線電信ノ擴充

對外放送ハ從來ノ日本語、英語ニ佛語及西語ヲ加ヘ更ニ華語放送ノ實施準備中ニシテ一方無電臺二機ヲ増設、都合四臺ノ無電臺ヲ以テ二波長又ハ三波長ヲ同時發振シ放送ノ効果ヲ一層發揮シツツアリ。

一、特派員ノ南方派遣

大東亞戰爭勃發以後機ヲ逸セス從軍記者以下多數ノ職員ヲ廣汎ナル南方地方ノ各方面ニ派遣シ、以テ戰況其他現地狀況ノ報道ニ遺憾ナキヲ期セリ。

一、戰況寫眞空輸

大東亞戰爭ノ重大意義ニ鑑ミ朝日、大毎(東日)兩社ト協議シ、三社所有ノ長距離大型輸送機各一機ヲ供出シ陸海軍報道部、陸海軍航空本部指導援助ノ下ニ「新聞航空通信班」ヲ結成、戰況寫眞原稿ノ共同空輸ヲ行ヒ之ヲ廣ク全國各社ニ配布シ以テ銃後ノ報道速報ニ遺憾ナキヲ期セリ。

一、社費月額調整

社員新聞社及放送協會ノ社費月額調整ニ關シテハ最モ公正妥當ナル基準ヲ設ケ漸次調整ヲ行ヒタル結果三月末日迄ニ大部分社費ノ調整ヲ完了セリ。

以上

二、昭和十六年度(自昭和十六年四月一日起至昭和十七年三月三十一日)會計報告

(イ) 貸借對照表

(昭和十七年三月三十一日現在)

資 産 之 部		負 債 之 部	
資 産	部	負 債	部
現 金	八四、二八一、九三	預リ保證金	七、二〇一、二九
銀 行 預 金	四二三、六三七、七九	假 受 金	一二七、九七九、六四
諸 預 ケ 金	一、三九七、〇七	未 拂 電 信 料	二五五、四〇八、〇二
所有 有價證券	九五七、一七二、五〇	未 拂 諸 經 費	一、三五九、五二五、九八
保 證 有價證券	一一五、二六四、七〇	未 經 過 通 信 料	三五三、〇六三、一九
保 證 金	五八、四一二、三〇	借 入 金	三、一四七、六一九、四一
國內支社局手持現金	三七、〇六一、五一	後 期 繰 越 金	五五、四九六、四七
海外總支社局手持現金	四四八、七八三、六三		
諸 通 信 社 立 替 金	二五二、八〇四、〇〇		
未 收 社 員 分 担 金	一四八、二九九、〇〇		
未 收 諸 通 信 料	一八、二〇七、三四		
諸 未 收 金	六五、一四五、九三		
假 拂 金	二三六、五八八、一〇		
諸 立 替 金	六〇一、七一二、二〇		
什 器 及 備 品	三〇八、八〇一、〇〇		
家 屋	一四八、〇一一、〇〇		
土 地	五六六、二六九、〇〇		
事 業 權	八三四、四四五、〇〇		
計	五、三〇六、二九四、〇〇	計	五、三〇六、二九四、〇〇

(己) 收支計算書

(自昭和十六年四月一日
至昭和十七年三月三十一日)

收入之部		支出之部	
新聞通信收入	四、六一〇、一〇三八二	總體費	二、一一一、五六七四三
經濟通信收入	一、五五二、六九五五七	本社費	一、五八四、〇一三三〇
海外通信收入	五、一八四、七七三二一	國內支社局費	一、七五五、八七一〇六
通信外諸收入	二八九、五七二七四	海外總支社局費	三、九九五、五四六八六
受入手數料	四三、三七〇〇〇	國內電信電話費	八〇九、八二一一六
小計	一一、六八〇、五一五三四	海外電信電話費	一、二〇二、五三八八〇
特別會計出版部剩餘金繰入	二八、三七九〇三	支拂手數料	一一九、四五〇〇八
		諸資產償却費	五〇、三一〇一七
		小計	一一、六二九、一一八八六
		特別會計寫真部缺損金補填費	六〇、九八六〇一
		當期剩餘金	一八、七八九五〇
計	一一、七〇八、八九四三七	計	一一、七〇八、八九四三七

(ハ) 財産目録

(昭和十七年三月三十一日現在)

科	目	金額
現行預金	八四、二八一	九三
銀行預金	四二三、六三七	七九
諸預金	一、三九七	〇七
所有有價證券	九五七、一七二	五〇
保證有價證券	一一五、二六四	七〇
保證金	五八、四一二	三〇
國內支社局手持現金	三七、〇六一	五一
海外總支社局手持現金	四四八、七八三	六三
諸通信社立替金	二五二、八〇四	〇〇
未收社員分擔金	一四八、二九九	〇〇
未收諸通信料	一八、二〇七	三四
諸未收金	六五、一四五	九三
假拂金	二三六、五八八	一〇
諸立替金	六〇一、七一二	二〇
什器及備品	三〇八、八〇一	〇〇
家屋	一四八、〇一一	〇〇
土地	五六六、二六九	〇〇
事業權	八三四、四四五	〇〇
計	五、三〇六、二九四	〇〇

右
審
查
候
處
相
違
無
之
候
也

監	常	同	同	同	同	同	同	同	同	理	
事	務										
事	監									事	
福	古	杉	末	關	森	後	清	宮	光	御	北
田	賀	山	光			川	水	崎	永	手	野
恭	傳		鐵	正	一	晴	順	光	眞	辰	吉
助	吉	榮	助	雄	兵	助	治	男	三	雄	內

